

第 1 2 事業年度 (2001 年度) 研究 Grant 受賞者

凡例 (順番は代表研究者の姓のアルファベット順)

研究代表者名 (外国人の場合、太字が姓) 所属 研究代表者の国籍
研究チームの人数・国籍 研究名
日本人共同研究者がいる場合、氏名・所属

- 1 . **ALITALO** Kari ヘルシンキ大学 フィンランド
3 名 (フィンランド、日本、カナダ)
須田 年生 熊本大学発生医学研究センター

リンパ管新生、血管新生の分子制御

- 2 . **ALZARI** Pedro パストゥール研究所 (パリ) イタリア
3 名 イタリア、アルゼンチン、カナダ

トリプトファン (酵素) の認識、加水分解、合成に関する分子機能

- 3 . **BONNE** Gisèle フランス国立衛生医学研究所 (INSERM) フランス
4 名 (フランス 2 名、日本、米国)

林 由起子 国立精神神経センター神経研究所

核内膜と筋疾患に関する研究

- 4 . **BURGER** Koert N. J. ユトレヒト大学 (オランダ) オランダ
4 名 (オランダ、イスラエル、イタリア、米国)

生体膜分裂の分子メカニズム

- 5 . **CHRISTIANSEN** 南イリノイ大学 (米国) デンマーク
Morten H. 4 名 (デンマーク、英国、米国、日本)

小倉 美恵子 鶴見大学短期大学部総合教育学部

言語取得における多段階事象の統合 : メカニズムと神経回路の観点から

- 6 . **COEN** Enrico John Innes Centre (英国) 英国
2 名 (英国、ポーランド)

バーチャルキングソウ - 遺伝子統合と形態発生

7. **CUSACK** Stephen A. 欧州生物学機構 (EMBL) (フランス) 英国
4名 (英国、米国 (2名)、日本)
濡木 理 東京大学大学院理学系研究科・理学部 生物化学専攻
アミノアシル RNA 合成構造の生物学的多機能性への適用
8. **DUNCAN** John Cognition and Brain Sciences Unit 英国
医学研究協議会 (英国)
4名 (英国、米国、イタリア、キューバ)
非空間的な視覚注意の神経的基礎: 目的物、姿、そして挙動
9. **FELIX** Marie-Anne パリ第6大学 フランス
4名 (フランス、ドイツ、米国、イスラエル)
Cエレガンス近縁の線虫 (棹線虫亜綱) における陰門発生の進化
10. **JESSELL** Thomas M. コロンビア大学 (米国) 英国
7名 (米国2名 英国3名、カナダ、オーストラリア)
腹部脊髄における遺伝学に確立された介在ニューロンの機能解析
11. **KIEBLER** Michael マックスプランク生物物理化学研究所 ドイツ
3名 (ドイツ、米国、英国)
微小管に沿った mRNA 輸送の分子的基盤
12. **LAMOND** Angus I. ダンディー大学 (英国) 英国
4名 (英国、ドイツ、デンマーク、米国)
分子動力学及びプロテオミクスを用いた細胞膜の機能的組織化の研究
13. **LeDOUX** Joseph E. ニューヨーク大学神経科学センター 米国
5名 (米国2名、ドイツ、イスラエル、英国)
記憶の再構築の理解へ向けて
14. **MAYER** Bernd Karl-Franzens 大学 オーストリア
4名 (オーストリア、ノルウェイ、フランス、日本)
清水 透 東北大学理学研究科生体機能化学講座
NO 合成酵素の機能: テトラヒドロプテリンの接触反応におけるユニークな役割

15. **McBAIN** Christopher NIH (米国) 英国 3名 (英国2名、カナダ)

介在ニューロン Ca^{2+} 浸透性 AMPA シナプスでのターゲティングとシグナリング

16. **MECHALI** Marcel フランス国立科学研究センター (CNRS) フランス
3名 フランス、米国 (2名)

DNA 複製における起源認識と真核生物におけるその制御

17. **MOLNAR** Zoltàn St. John's College、オックスフォード大学 英国
4名 (英国、フランス、米国、日本)

山本 亘彦

大阪大学システム人間系専攻生物工学分野脳科学講座

皮質層 V ニューロンの分化に係わる細胞・分子メカニズム

18. **NARANJO** Jose R. 国立バイオテクノロジーセンター スペイン
4名 (スペイン、イタリア (2名)、米国)

神経細胞の生成、発達、死における Ca^{2+} 輸送システムの Ca^{2+} に制御された発現

19. **OOSTRA** Ben A. エララスムス大学 (オランダ) オランダ
4名 (オランダ、イタリア (2名)、フランス)

脆弱 X 染色体精神発達遅延症に欠陥のある FMR1 タンパク質の神経的機能：統合的アプローチ

20. **OWEN-HUGHES** ダンティ-大学 (英国) 英国
Thomas 5名 (英国、フランス、ベルギー、米国 (2名))

SWI /SNF 関連複合体の機能・構造の研究

21. **PENNARTZ** Cyriel オランダ脳科学研究所 オランダ
3名 (オランダ、英国、米国)

学習及び記憶統合における関連する脳の領域間の細胞集合体の相互作用

22. **PETERS** Christoph Medizinische Molekularbiologie
Klinikum der Albert-Ludwigs-Universität
Freiburg
ドイツ 3名 (ドイツ、オランダ、スペイン)

樹状細胞による MHC クラス II 抗原提示におけるタンパク質分解の役割

23. **PLUCKTHUN** Andreas チューリッヒ大学 (スイス) ドイツ 2名 (ドイツ、オーストリア)
(GERMANY)

単一分子ソーターでのタンパク質進化と機能的ジェノミクス

24. **ROTHSTEIN** Rodney コロンビア大学 (米国) 米国
3名 (米国、フランス、日本)

岩崎 博

横浜市立大学大学院総合理学研究所生体超分子システム科学専攻創製科学
研究室

ゲノム安定化機構における相同組換え中間体の役割及びその解消のメカニズム

25. **SCHAFER** William R. カリフォルニア大学サンディエゴ校 米国
4名 (米国2名、イタリア、日本)

森 郁恵

名古屋大学大学院分子神経生物学

線虫 *C. elegans* における感覚受容神経回路の機能解析

26. **SCHÄRER** Orlando D. チューリッヒ大学放射線生物学研究所 (スイス) スイス
3名 (スイス、オランダ、米国)

DNA 修復複合体 ERIC1/XPF に関する生物学、化学及び構造

27. **SCHIERWATER** ハノーファー大学 (ドイツ) ドイツ
Bernd 3名 (ドイツ、米国、英国)

Antp スーパークラス遺伝子コンソーシアム：制御遺伝子の起源と主要な身体形成機構の革新

28. 芝 清隆 (財) 癌研究会癌研究所・細胞生物部 日本
3名 (日本 (2名)、米国)

菅 裕明

ニューヨーク州立大学バッファロー校

人工進化系による新しい遺伝暗号システムの創出

29. **SHORE** David Mark ジュネーブ第2科学大学分子生物学部 (スイス) 米国
4名 (米国2名、日本、イタリア)

水田 啓子 広島大学生物生産学部応用生化学講座

酵母におけるリボゾーム蛋白質遺伝子群の転写調節と増殖制御

30. **SILVER** Pamela A. ハーバード大学医学部 米国
6名 (米国2名、オーストラリア、日本、スイス、ドイツ)

米田 悦啓 大阪大学大学院医学系研究科情報伝達医学専攻機能形態学講座

核 細胞質間輸送の分子メカニズム

31. **STUART** David I. オックスフォード大学 英国
3名 (英国、フィンランド、米国)

巨大分子集合体の構造と分子組織の機能

32. **TALIANIDIS** Iannis Lab. of Mammalian Genetics ギリシア
IMBB, FORTH
3名 (ギリシア、イタリア、ドイツ)

肝細胞の核因子の肝臓における役割と膵臓のベータ細胞機能

33. **THIER** Hans-Peter Dept. of Cognitive Neurology, University of Tübingen (ドイツ)
ドイツ 4名 (ドイツ、イスラエル、英国、日本)

篠田 義一 東京医科歯科大学大学院医学総合研究科精神行動医科学

小脳-大脳関連機構：視覚認知と運動制御の基礎課程

34. **THOMAS** Andrew P. New Jersey Medical School 米国
4名 (米国、英国2名、イタリア)

ミトコンドリアのカルシウムシグナリング：構造的決定要因と細胞における帰結

35. 豊島 近 東京大学分子細胞生物学研究所 日本
3名 (日本、フランス、米国)

P型ATP加水分解酵素によるイオン能動輸送の構造的基礎

36. 上村 匡 京都大学ウイルス研究所遺伝子動態調節研究部門 日本
4名(日本、オーストリア、中国、米国)

軸索突起・樹状突起のパターン形成：RhoGTP 加水分解酵素の制御

37. WEIGEL Detlef Plant Biology Laboratory
The Salk Institute for Biological Studies (米国)
ドイツ
4名(ドイツ、英国、オーストリア、イスラエル)

新シグナリング経路による植物体構造の制御

38. WERNER Milton H. ロックフェラー大学分子生物物理学研究所(米国) 米国
4名(米国、日本2名、ドイツ)

伊藤 嘉明 京都大学ウイルス研究所ガンウイルス研究部門

柴原 慶一 科学技術振興事業団・京都大学ウイルス研究所

クロマチン形成とヒト急性白血病

39. WICKNER William T. ゲートマス大学医学部(米国) 米国
4名(米国、ドイツ2名、日本)

中野 明彦 理化学研究所生体膜研究室

生体膜の融合の機構

40. WITTBRODT Joachim EMBL(ドイツ)
ドイツ
4名(ドイツ、スペイン、オーストリア、日本)

近藤 寿人 大阪大学多細胞生態系研究部門

脊椎動物における水晶体 網膜相互作用の体系的な分子遺伝解析

41. 八木田 秀雄 順天堂大学医学部免疫学講座 日本
2名(日本、オーストラリア)

NK細胞による腫瘍監視の分子機構

以下、これより「若手研究者部門」

42. **FRANKE** Thomas F コロンビア大学（米国） ドイツ
3名（ドイツ2名、英国）

高次脳機能における P13K/Akt シグナリングの役割への多分野からのアプローチ

43. **GALIZIA** Giovanni 自由大学生物学研究所（ドイツ） イタリア
3名（イタリア、アルゼンチン、ルクセンブルグ）

昆虫の脳における嗅覚情報解読に関する包括的研究：行動、生理学、モデリング

44. **GALLI** Thierry フランス国立衛生医学研究所（INSERM）
フランス
4名（フランス、ドイツ、米国、イタリア）

脳の発生における神経細胞の伸張を司るエキソサイトーシスの役割

45. **KIM** Dae-Shik ミネソタ大学医学部 核磁気共鳴研究センター（米国） ドイツ
3名（ドイツ2名 日本1名）

森 進 ジョーンズホプキンス大学医学部放射線科

拡散テンソル核磁気共鳴画像法を用いた神経繊維連絡と脳機能活性の映像化

46. 近藤 隆 理化学研究所脳科学研究センター発生分化研究グループ
日本
2名（日本、インド）

ホメオティック遺伝子複合体における遺伝子発現調節に対する染色体構造の役割の解析

47. **LUSCHER** Christian ジュネーブ大学（スイス） スイス 2名（スイス2名）

薬物依存症の細胞的機構：Gタンパク質に共役したカリウム電流のモルヒネ類による脱感作

48. **MCKIE** Andrew ロンドン大学 キングスカレッジ 英国
3名（英国、オーストラリア、米国）

小腸の鉄分輸送の分子制御：新たな分子の固定と性格付け

49. **NIELSEN Rasmus** コーネル大学生物測定学部 デンマーク
3名(デンマーク、ドイツ、中国)

分子改造からタンパク質機能へ：ゲノム解析の新しいツール

50. 酒井 邦嘉 東京大学大学院総合文化研究科 化生命環境科学系 認知行動科学 日本
2名(日本、英国)

文法処理の脳機構

51. **SEYBOLD Steven** ミネソタ大学(米国) 米国 2名(米国、ドイツ)

マツとマツ樹皮コガネ虫のイソプレノイド生合成に関する比較生化学及び分子科学研究

52. **THANOS Dimitris** コロンビア大学 ギリシア 4名(ギリシア2名、インド、日本)

中野 裕康 順天堂大学医学部免疫学講座

シグナル依存的な NF- κ B 活性化のメカニズムの解析

53. **TONTONOV Peter** UCLA 米国 3名(米国、ハンガリー、英国)
USA

脂質代謝の制御における PPAR と LXR のクロストーク